

第5号 市小公連だより

筑紫野市小地区公民館連絡協議会



■発行元 筑紫野市小公連事務局 ■編集者 事務局長 福地 宗一
 ■発行責任者 会長 森田 陽子 生涯学習課 佐々木泰博
 〒818-0057 福岡県筑紫野市二日市南1-9-3 生涯学習センター内 電話番号092-918-3535

役員のごとは 二日市 天神公民館長



理事 井上 章 平成26年度
 常任 筑紫野市小公連の事業計画
 小公連で予定している福岡県公民館大会及び九州地区公民館研究大会には、多数の参加を頂き、厚く御礼申し上げます。
 また、9月の推進大会にも多数の来賓の皆様のご出席を賜り出席者340名を数えました。関係者の皆様のご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。
 今年度は「小公連」発足40周年の記念すべき年に相応しくさんあいホール(ホワイエ)やラウンジにおける各公民館の活動状況の展示及び代表公民館による地域に合った独自の活動の発表・研究討議等が活発に実施されました。私たちも参考にしたいところが多々あり、大盛況のうちに終了しました。今年の推進大会で、公民館はまちづくりの拠点・避難場所としての役割を果たし、各家庭・学校・地域との連携を図り、情報の発信と共有化を推進し、継続的かつ積極的に活動することを宣言しました。特に、7月、8月は長雨が続き、8月22日は豪雨による初めての全市避難勧告が発令されました。要支援対策、避難者の対応等、今後の公民館としての役割の重要性が問われます。

今、地域社会で人と人との結びつきが弱まる中、人々の孤立化も指摘されており、地域課題の解決や地域の活性化など地域づくりの取り組みを推進することが早急な課題となっております。今後、地域の特性を生かし、地域に適合した公民館活動を、さらに積極的に推進して行きたいと考えております。

市小公連の活動報告

福岡県公民館大会

7月31日(木)春日市クローバープラザにおいて第59回公民館大会が開催

10時15分より大会式典、11時より講演、13時10分よりインタビュアー・ダイアログが実施された。全体で約千名、筑紫野市から31名の理事・参与等が参加した。大会の趣旨は、社会情勢が急激に変化する中で、県内の公民館関係者・コミュニティ施設関係者が一堂に会し、公民館として果たすべき役割などについて理解を深めることにより、今後の公民館の活動の一層の充実・発展に資するということと、「地域の課題解決や活性化に向けた公民館活動のあり方」を大会テーマとしている。

講演は、新居浜市市民部長の関福生様より「公民館は永久に不滅です!」と自信をもってそう語るための10の提案」という演題で、お話がありました。
 「小さな殻から抜け出そう」「目標を定め、動く」「志事(しごと)」の機会をつくる」「子ども・学校を巻き込む」「地域の誇りを磨く」「固定観念を捨ててみる」等のキーワードで最後に、「公民」が育てば「幸民」になる、「究極の目的は、みんなの幸せ」と締めくくられた。

また、午後のインタビュアー・ダイアログは「地域の活性化に向けた公民館の役割」を討議のテーマとして、九州女子大学教授の大島まな氏がコーディネーターを務められた。関氏のほか、宇美町原田下区の坂本武男氏、久留米市三瀬町校区青少年育成協議会会長の花田正嗣氏が登壇されそれぞれの立場で研究討議が行われた。



九州地区公民館研究大会

8月28日(木)・29日(金)の二日間鹿児島市民文化ホール等において開催

一日目の8月28日は13時30分より分科会、二日目の8月29日は9時30分よりアトラクション、開会行事、記念講演等の全体会を実施。全体で2千名、筑紫野市から14名の理事・参与等が参加した。大会の趣旨は九州の公民館をはじめ生涯学習・社会教育関係者が一堂に会し日頃の実践をもとにこれからの公民館の在り方や直面する諸問題の解決に向けての研究討議を深め、今後の公民館活動の一層の充実・発展を図るために本研究会を開催するということと、「地域課題の解決と地域の活性化をめざして」を大会テーマとしている。

一日目の分科会は「地域づくり」「家庭教育」「高齢化社会への対応」「人権教育」「自治公民館活動」「青少年教育」「ボランティア活動」の7分科会に分かれており、各理事は各々関心の高い分野の分科会に参加し、熱心に発表者、助言者の話を聞き質疑応答に参加し研修を深めた。

二日目の全体会は、アトラクションとして、垂水市大野地区公民館の棒踊り保存会による伝統芸能及びヤング踊り連Team鹿女短による若さと躍動感にあふれる素晴らしい踊りが披露された。記念講演では名行司と称された第36代木村庄之助元大相撲立行司が行司の装束姿で「努力すれば夢は叶う」と題して語られ参加者を魅了した。



市小公連平成26年度推進大会

「一緒にやりましょう〜まちづくり」公民館をまちづくりの拠点に〜という大会テーマのもと、筑紫野市の公民館関係者が一堂に会する推進大会が開催された。

9月6日(土)10時より筑紫野市生涯学習センター、さんあいホールにおいて平成26年度市小公連推進大会が開催された。公民館長・主事のほか、地域婦人会・ボランティアバンク・一般市民の皆様等、340名の参加者があり、非常に盛況であった。

藤田市長をはじめ来賓13名のご出席を頂き開会行事が実施された後、午前中は講演が行われた。

講師として九州大学大学院の専任講師である田北雅裕氏が「公民館から始まる「まちづくり」という演題で話をされた。

「まちづくり」は、決して難しくなるとは、事例をもとにした解りやすいお話で「まちづくり」に取り組みむヒントを沢山教えて頂いた。

山教して私達にも、やればできるといいう自信をつけて頂くと共に、「まちづくり」とはそんな当たり前の事実を自覚しながら次の世代に希望を託す営みであることも教えて頂いた。

また、終日さんあいホール前のホワイエにおいて、本町公民館のさげもん、塔原公民館の竹細工、各地区夏祭りの写真、ボランティアバンクの実演、映像による活動紹介等、21の公民館及び8つの関連事業の展示があり盛りだくさんの内容で各公民館の活動状況や関連事業の紹介が実施され大変好評であった。

午後5時発表の前に岡田公民館で産声を上げた活動中の総勢60名に及ぶ「FUNKEY'S」ダンススタイルの踊りによるアトラクションで大いに盛り上がった。

午後5時発表の前に岡田公民館で産声を上げた活動中の総勢60名に及ぶ「FUNKEY'S」ダンススタイルの踊りによるアトラクションで大いに盛り上がった。



午後5時の研修会では、3つの公民館の活動状況が報告された。
 ◎二日市地区京町公民館による「京町公民館活動と京町夏まつり」
 ◎山家地区山家2区公民館による「じ・み・ち」な公民館活動〜いきいきサロンの活動を中心として〜
 ◎御笠地区みかさ台公民館による「翔べー! 未来の公民館」が、それぞれ発表された。
 各公民館の発表の後、今年新しい試みとして「研究討議・まとめ」ということで発表者、講師の方々に登壇していただき、筑紫野市の亀井社会教育主事司会で行われ、加者からの質疑応答も行われた。

大会宣言

1. 心豊かな「ひとづくり」と住み良い活力のある「まちづくり」を構築します。
2. 避難場所として、関係機関との連携を図り公民館の充実に努めます。
3. 学校・家庭・地域そして関係団体との連携を図ります。
4. 情報の発信と共有化を推進します。



小地区公民館夏祭り

二日市地区



上古賀公民館



京町公民館

御笠地区



上阿志岐西公民館



宮の森公民館

山口地区



俗明院公民館



若葉中原公民館

山家地区 全公民館



筑紫地区



桜台公民館



永岡公民館

公民館の活動紹介

上西山(山家一区公民館)

長崎街道最大の難所だった冷水峠は、一六一二年(慶長十二年)に開鑿(カイサク)され、それをもって長崎街道開通と考えているそうです。

山家一区は、峠付近に位置しており、三世帯、七名が生活をしております。大根地山の登山道入り口の壘冠(カメカムリ)神社には、無病息災、商売繁盛の祈願で多くの人が参拝に訪れています。森林のマイナスイオンが心を癒してくれます。

今年(平成二六年七月)は通学合宿で一区の公民館が使用され山家っ子達が一週間寝食を共にして豊かな心・家庭教育・地域の協力を学び過ごしたこととお思っております。一区の少子高齢化を考えさせられたことでもあります。課題もありますが、全員で一致協力して住みよい村を目指して頑張っております。



壘冠神社



冷水峠



一区公民館

市小地区公民館館長・主事等研修会

人権問題啓発実行委員会(市民懇談会)期間団体の研修を兼ねて平成26年度第2回公民館館長・主事等研修会開催

10月20日(月)19時より生涯学習センター視聴覚室において、市内の各小地区公民館館長・主事の皆様を対象に、筑紫野市小地区公民館館長・主事等研修会が開催された。

76名の参加者があり、熱心に研修が実施された。今回は、筑紫野市人権教育地域活動指導員である、野村豊治様を講師としてお迎えし「子ども達が学ぶ同和問題」というテーマで講演をして頂いた。先ず、小学校6年生の社会科教科書に掲載されている人権問題の内容を紹介され、その中から特に「同和問題」に焦点を絞り、演習なども交えながら同和問題の基本について、わかりやすく解説された。そして、今日の人権侵害の現実について、具体的な事例をいくつか紹介しながら詳しく説明があった。

また、筑紫野市の人権問題啓発活動の具体的な内容(人権問題啓発実行委員会、広報ちくしの「TUNAGU」同和問題講演会、街頭啓発、啓発冊子の作成など)について紹介があった。子どもたちから、「同和問題って何?」と質問された場合、「そんな問題なんかは考えることではないよ!!!」というような回答は決してしないほしい。「自分も勉強しているが、お互いに日本人としてしっかりと学習して、差別のない社会を作っていく」というような回答をして下さいと話された。そして人権尊重のまち、筑紫野市をさらに発展させて行くため、各自の意識改革を高めていく必要がある旨を強調されて講話が終了した。同和問題に対する正しい知識をしっかりと身につけることの重要性を痛感させられた有意義な研修であった。



生涯学習センター視聴覚室での研修風景

編集後記

先日、出雲大社で高円宮家の次女典子様のご結婚式がありました。旧暦10月は出雲大社に全国の神様が集まって一年のことを話し合うため、出雲以外には神様がいない、出雲以外にという伝説から「神無月」、逆に「神在月」と言われます。「神在月」と言われます。時間の経つのは早いもので、今年も余すところ2カ月足らずとなりましたが、今年の小公連の主要事業も皆様方のご支援ご協力のおかげで、約7割が無事完了しました。紙面をお借りして、厚く御礼申し上げます。これから、地区別視察研修会や福岡地区公民館研修会等が予定されていますので、引き続きご協力の程よろしくお願いたします。